

今回は説明文、論説文の読解力を身につけるための学習方法について説明します。

説明文、論説文の読解においては、細部を正確に読み取る力と、文章全体の内容を大きくとらえる力が求められます。文章はいくつかの形式段落を積み重ねていくことで成り立っています。ですから、それぞれの形式段落に書かれている細部の内容を正確に理解することが必要です。しかし、細部にばかり気をとられていては、筆者がその文章を通して何を言いたかったのかがすっきりと頭に入ってきません。国語が苦手な人は、どうしても今自分が読んでいる部分の内容を理解することだけに意識が向いてしまい、本文全体の中で今読んでいる部分がどのような働きをしているのかについて考えることが、おろそかになってしまいがちです。その結果、文章を最後まで読んでも、文章の見取り図が描けていないため、内容が頭に残らないという状態になりがちです。

では初めに、細部を正確に読み取る方法から説明していきたいと思います。

文章は、筆者の考えや、これから説明する内容やこれまでに説明してきた内容をまとめている抽象的部分と、例やたとえを用いて説明している具体的な部分から成り立っています。当然、抽象的に書かれている部分に大切な内容が書かれているので、まず文章の中から抽象的に書かれている部分を見つけられる力を身につけることが大切です。しかし、抽象的な部分が大切だと言っても、具体的な説明の部分が必要ないわけではありません。抽象的に書かれているところは、書いてある内容が難しかったり、一読しただけではわかりにくかったりするものです。ですから、具体例やたとえの部分の補完的に読むことで、抽象的部分がどういうことを言っているのかを理解するように心がけてください。

次に、抽象的に書かれている部分を見つける方法を4つ説明していきたいと思います。

①キーワードが入っている文に注目する。

文章の中で何度も繰り返し使われている言葉や、話題に関連する言葉の入っている文をおさえるようにします。

②強調表現が使われている文に注目する。

「～しなければならない」「～するべきだと思う」などのように、強調する表現が使われている文をおさえましょう。

③接続語に注意する。

「だから」「したがって」などの順接の接続語の後ろ、「しかし」「ところが」などの逆接の接続語の後ろ、「つまり」「このように」などのこれまでの内容をまとめたり、言い換えて説明したりする働きをする接続語の後ろは、注意して読むように心がけましょう。具体例をあげて説明する接続語「たとえば」は、「たとえば」の前に抽象的な内容が書かれています。

④各形式段落の初めの一文と終わりの一文に注目する。

日本語の文章では初めと終わりに大切な内容が書かれることが多いので、各形式段落の初めと終わりは注意して読んでください。文章全体で言えば、初めの形式段落と最後の形式段落が大切な段落と言えます。

基本的には抽象的な部分と具体的な部分は交互に出てきますので、どこで入れ替わるかに注意しながら読み進めるようにしてください。また、重要な文に線を引きながら読むようにするとよいでしょう。

続いて、文章全体の構成を考えながら本文を読めるようになる力の身につけ方について3つ説明します。

①序論、本論、結論という大きな枠組みを意識してみる。

初めの段落ではその文章の話題が提示され（序論）、その後、例や理由をあげながら、話題に対しての具体的な説明があり（本論）、最後の段落でその文章を通して伝えたいことを述べる（結論）という形式の文章が、中学入試で出題される問題では多く見られます。

②これから書かれるであろう内容を予測しながら文章を読むようにする。

たとえば、「どうしてそう言えるのだろうか」のように、疑問文が出てくれば、その答えとなる内容が筆者の主張となっていることが大半なので、疑問文が出てきたら、その答えがどこで説明されるかを意識しながら文章を読むようにします。また、「初めに」「まず」「さらに」「しかも」「また」「～だけでなく」などの言葉が出てくれば、どのような内容と、どのような内容が並列されているのかに注意しながら読み進める必要があります。また具体例の部分は、何の例を説明している箇所なのかを念頭におきながら読むことが重要です。

③文章の論理展開を追いかける。

論説文では、話題となることに対して、例をあげることで読者の理解を深めたり、主張に対する理由を説明したりしながら、文章を結論へと導いていきます。入試問題で高得点を取れるようになるには、細部を読みながら、同時に文章全体の大きな流れをつかむことができるようになることが必須です。文章の論理展開を理解しながら細部を読めるようになる練習方法を紹介します。それは、形式段落をひとつ読むごとに一度読むのを止めます。そしてその形式段落の内容を、抽象的に書かれている部分に着目して頭の中でまとめてください。まとめることができたなら、次の形式段落を読み、同じようにその段落の内容をまとめます。次に今読んだ形式段落の内容と、一つ前の形式段落の内容の関係を考えるようにしてください。同じ内容が続いているのか、前の段落の具体例があげられているのか、前の段落に書かれたことの理由が述べられているのかなどを意識して考えてみましょう。これを繰り返して文章を終わりまで読みます。そして最後に、その文章は何について書かれていて、どのようなことを筆者が言いたかったのかについて、必ず考えるようにしましょう。

今回説明したことはとても難度の高いことですが、文章構成という見取り図を頭の中に描きながら細部が読めるようになると、より正確に文章を理解することができるようになります。また、文中のどの部分にどんな内容が書かれていたのかを意識できていますので、設問を解く力も上がっていきます。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第5回

今回は理由の記述を学習します。まず、傍線を含む文脈を読んで、理由が書かれている箇所をさがすようにしましょう。自分の書いた答案に、「なぜ？」という疑問が生じないかどうか確認してください。疑問が生じるときは、その疑問に対する理由までさかのぼる必要があります。最後に、自分の答案と傍線部をつないで読み、意味が通じるかどうか確認するようにしましょう。

第6回

今回は愛光中の入試問題研究を行います。60分で問題を解き、解説動画を見るようにしてください。はじめに問題全体を見て、どの問題から解き始めるか、戦略をたてましょう。また、1問に時間をかけすぎないように、時間配分に気をつけて解くようにしてください。

第7回

今回は心情説明の記述を学習します。心情の記述では、「きっかけとなる出来事」と「心情」の2ポイントをまとめるようにします。「きっかけとなる出来事」から考えた方がよいか、「心情」そのものから考えた方がよいかは、傍線が引かれている部分によって決まります。今回の授業で学びとってほしいと思います。

6 灘 WEB においては春休みを除いて、7 月までで中学受験に必要な単元の発展的なものも含めた基本をほぼすべて扱います。

テキストは、算数強化ツール(の中の「応用」部分の前半)と、灘特訓テキスト前期を使用し、それぞれ独立した動画があり、いずれも特に重要な問題を中心に一部の問題を扱っています。

いずれも学習法は共通しており、先に動画を一通り見て、理解した上で、もう一度問題を解き直す…ということを繰り返していく方法と、動画で扱っている問題を確認して(動画においては、必ず問題を読み上げますので、その段階まで見て一旦動画を止めるといったのもいいと思います)、一旦自力で問題に挑戦し、その後、動画を見た上で、ご自分がほぼ理解できていたと思われたら次の問題に進み、何らかの間違いがあつたり、正解したものの、新しい解法や知識などが展開されたりした場合は、解き直しをする(新しい解法で解いてみる)というステップを入れた上で、次の問題に進むという方法があります。

この、解き直す…という段階を経ることにより、実力が飛躍的に向上していきます。

理想としては、間違つたり、新しい発見があつたりした問題については、少し間を置いて(例えば、1 週間、1 ヶ月など)再度解き直しをするとより完璧になります。

あと、動画がない問題についても、余裕に合わせて取り組んでみてください。この場合は、付属の解答解説を参考に、間違つたところについては解き直しをすることをお奨めします。

算数強化ツール

◆第 4 回 (テキスト表記は 22 回…括弧内は以下同 規則性)

規則性に関する色々な問題に取り組みます。一概には言えませんが、規則性においては、小さい例で正しいかどうか確かめる…ということが重要になることが多いと思います。学習対象問題は 1~13です。14~23は余裕があつたら取り組んでください。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の前半の部分を扱いますが、少し引っかかることが多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

◆第 5 回 (23 回) 場合の数

場合の数に関する色々な問題を扱います。上位校では色々な形を変えながらよく出題される単元になりますが、基本となる考え方をここでしっかり身につけてください。学習対象問題は 1~18です。19~28は余裕があつたら取り組んでください。

◆第 6 回 (24 回) 和差に関する文章題

和差に関する文章題を扱います。古典的な問題も多いですが、しっかりとマスターしておいてください。2, 3は特にいい問題です。学習対象問題は 1~18です。19~31は余裕があつたら取り組んでください。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の前半の部分を扱いますが、少し引っかかることが多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

灘特進特訓テキスト

◆第5回 文章題

主に和差に関する文章題が扱われています。**16**, **17**は面白い問題です。

◆第6回 立体図形Ⅱ

一部立体の切断もありますが、求積に関する問題が多くなります。**10**~**13**, **16**, **20**, **21**は面白い問題になっています。

◆第7回 割合と比Ⅰ

割合と比に関する文章題です。**2**はどちらかというとな数論になります。